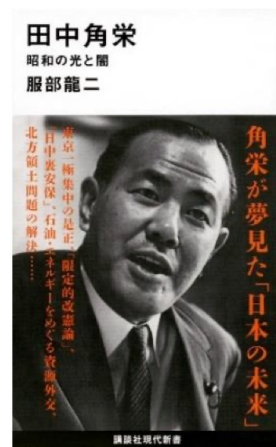


演習 I・II (政治学)

学生同士の議論を中心にして、政治・歴史・人間について考えを深める演習形式の授業

2021 年度に取り上げた本は、以下の 4 冊です。



学生は、事前にテキストを読み、報告者に様々な質問をぶつけ、また、報告者が提示した論点をめぐって議論をします。たとえば、

- ・著者は愛国主義には二つの種類があると指摘しているが、現在の日本で言われる「愛国主義」はどちらのタイプの愛国主義なのだろうか？
- ・なぜ田中角栄はロッキード事件で逮捕されたにもかかわらず、選挙に勝ち続けたのか？
- ・歴史を勉強して何か役にたった、と実感した経験はあるかあるとすれば、どのような経験か？ 等々

本年度は基本的にオンラインでの授業を行っていますが、ティーチング・アシスタントの大学院生の解説による、鹿児島市内の戦争記念碑めぐりなど、屋外にでかけての演習も企画しています。

この演習を通して学生の皆さんに見つけてほしいと考えていることは

- ①複眼的な思考（ひとつの事象を複数の観点から検討し考えていく）
- ②罵倒の応酬や論破のための議論ではなく、相互のコミュニケーションを通じて議論する力
- ③政治、そして政治学、さらには人文社会科学への知的好奇心の喚起

「イギリスで出たあるパンフレットに“YOU may not think about politics, but politics thinks about YOU”という文句があるそうです(G.D.H & Margaret Cole, A guide to modern politics, p.9による)。あなたがどんなに政治が嫌いでも、どんなに政治に無関心でも、政治の方であなたを追かけて来てしっかり掴んではなさない、という意味です。政治がこれほど私達の生命を自由に左右する力をもつからこそ、これに真正面から立ちむかい、政治の力を野放しにせずこれを私達のコントロールの下に置くにはどうしたらいいかということ、文字通り私達の死活の問題として考えざるをえないのです。」(丸山眞男「政治の世界」)